

# 2022 年度を振り返って



広土会会長  
石井 義裕

2023年度には広土会は55周年を迎えます。学科ができたのは遡ること1963年になり、今年には60歳となります。つきましては、広土会創立55周年記念事業を9月下旬に開催致しますので、皆様とお目にかかれることを楽しみにしています。詳細は広土会ホームページ等でご確認ください。

大学の掲げるHIT Visionには「同窓会との連携」、「地元企業との連携」が挙げられています。日頃より広土会の皆様には、見学会、非常勤講師、インターンシップや就職活動におけるご協力をいただいております。その中でも、広土会の果たす役割は大変大きくなっており、時代や職場を超えたつながりを深める貴重な場だと思っております。若い同窓生の方には、なかなかその必要性を感じないかもしれませんが、卒業生同士のつながりは自ら得ようとしても得られない貴重なものです。是非、広土会の各種行事に積極的に参加をしてみてください。きっと得られるものが大きいと思います。また、各組織におかれましては、若い同窓生の広土会行事

への参加に格段のご配慮をお願いする次第です。

2022年度はコロナ禍が少し落ち着いたため、大学の諸行事も従前の形式に戻っています。11月には2年ぶりに再開した企業懇談会に、多くの同窓生の皆様のご出席をいただきまして、ありがとうございました。講義については、基本的にはコロナ以前の対面型講義に戻りましたが、一部オンライン型授業（メディアを多用した教育ともいいます）の科目も行っていきます。

環境土木工学科の近況をご報告申し上げます。2022年度は伊藤 雅（教授）が新たに学科長となり教職員14名で学生の教育・研究にあたっています。2023年3月には、森脇武夫（教授）が定年退職されます。森脇先生におかれましては、2018年にご着任以来、専門の地盤工学の研究教育に邁進頂き、多くの卒業生を育成いただきました。今後も学内外において、土砂災害に関する分野においてご活躍されるものと思います。なお、森脇先生におかれましては、2023年度も引き続き、卒業研究をはじめとする学生教育をお願いしています。また、堀部先生（英語）、村中先生におかれましては、2023年度も引き続き教育指導をお願いしています。同窓生の皆様におかれましては大

学に来られた際には是非、先生方のお部屋にお立ち寄りください。先生方の研究室は変更ありません。定年後も非常勤講師をお願いしていました、福原輝幸先生におかれましては、残念ながら2022年度が最終年ということとなりました。小堀慈久先生には引き続き客員教授として学生の資格取得（特に技術士1次試験）に、ご尽力頂いており、通称小堀塾の受講者が在学中の合格に結びついています。

2022年度は70名の入学生があり、学科全体では在籍学生が335名となっています。2023年3月に卒業生する予定者は約97名となっており、本学大学院への進学者も2名います。同窓生の皆様のご尽力も有り、就職率は100%近くとなり大変感謝しています。大学院修了者の就職においても、よろしくお願い申し上げます。現在、就職活動に励んでいる現3年生は72名おり、大学院進学者希望者も数名いるとのこと。引き続き、学生・大学院生の就職へのご協力・ご支援をお願いいたします。（なお、学生数は全て2022年4月時点の人数となります。）

最後になりますが、広土会会員の皆様の益々の発展とご健康を祈念して、挨拶とさせていただきます。